



タイ 専門家派遣 報告

タイでは 1985 年～1999 年に水道セクターの研修センター建設(JICA 無償資金協力事業)と、研修センターの運営・能力強化のための技術協力プロジェクトが実施されました。今回、WaQuAC-NET の会員を含む当時の技術協力専門家 6 名が、当時の C/P 機関である MWA(首都圏水道公社)、PWA(地方水道公社)を訪れました。タイ MWA は、WaQuAC-NET と MOU を締結(会報 15 号:2012 年)し、継続的に協力してきていることから今回の訪問の機会を活用して、会員メンバーに視察・協議やセミナーを行っていただきました。皆さんが 20 年ぶりに現地を訪問した様子と併せ、それらの活動を報告していただきます。(事務局)

[参考] プロジェクト概要:

タイ水道技術訓練センター(NWTTI) (外務省ホームページ)
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/report/thai3.html>

報告 1 首都圏水道公社の視察と懇親会 宮垣融

2023 年 5 月 19 日、かつての JICA エキスパートのうち 6 名がタイ王国首都圏水道公社(MWA)水道技術訓練センター(NWTTI)を訪問しました。参加したのは 1994 年～1999 年の間に NWTTI のプロジェクトで技術移転にあっていた進士靖洋氏(名古屋市)、藤谷光宏氏(大阪府)、笹山弘氏(横浜市)、田坂望氏(大阪府)、宮垣融(東京都)という、WaQuAC-NET のメンバーを含む 6 名です。

タイ側からの参加は MWA および地方都市水道公社(PWA)の、元職員と今や公社幹部となった現役職員らで、当時のエキスパートとカウンターパートが一堂に会しました。

イベントは、初めに現 MWA 総裁の Manit Panaim 氏

58 号 目次

- ・タイ 専門家派遣報告
 - 1) 首都圏水道公社の視察と懇親会 1
 - 2) 首都圏水道公社の水質ラボ訪問 2
 - 3) チェンマイの環境汚染管理室1訪問 3
- ・水質管理分科会の報告 4
- ・2023 年度 神奈川県海外技術研修員決定 ... 4
- ・WaQuAC-NET と Dr. Nan 5



MWA からメンバーへの花束贈呈

から、タイの水道事業を支援してきた専門家を歓迎することは光栄であり、現在も職員の技術の継承と育成はその成果を拡大することとなるとの挨拶をいただきました。そして、かつての職場を視察し、なつかしい景色を眺め、ランチの場でも当時のカウンターパートと四半世紀前の出来事を笑いとともに思い出すひと時となりました。

当時の研修所は、現在も建物はそのまま研修施設として活用されていましたが、新たな施設も建設することでした。研修は限られた期間のことでしたが、人と人との絆は 24 年後の今も途切れず、技術移転の歴史はもちろんのこととして、その国際的な友情は風化しないことを実感した訪問となりました。



MWA Mani 総裁

報告 2 首都圏水道公社の水質ラボ訪問

笹山 弘

2023 年 5 月 22 日首都圏水道公社(MWA)のパンケン浄水場に隣接する水質ラボを訪ねました。目的はこれまで MWA から 4 名が参加している神奈川県海外技術研修員制度について、今後の WaQuAC-Net のサポート内容を探ることです。



歓迎挨拶

当日は派遣者選定の責任者である Ms.Chaweepan、2019 年度参加者の Ms.Weesuda、2022 年度参加者の Ms.Thitima、2023 年度参加予定者の Ms.Kannicha と話し合いを持ちました。2017 年度参加者の Ms. Patcharaporn と 2018 年度参加者の Mr.Varich はそれぞれ業務の都合で会うことができませんでした。



漏水調査研修ヤード

ワクワク会員は、宮垣(左から 2 人目)、藤谷(左から 4 人目)、笹山(左から 6 人目)、ニッサパット(右端)

まず研修経験者から日本での生活面及び研修面でのトラブル等について話を聞きました。生活面ではストレスからの胃痛や寒い時期の風邪など病気になりましたが、いずれも深刻なものではなかったようで、食事や交通でのトラブルは全くなかったそうです。かつてタイからの研修生は、食事や電車の乗り換えで苦労していたのですが、特にバンコクの若い世代の人たちにとって日本食はポピュラー、電車の乗り換えにも慣れていて、スマホのアプリでどこでも迷わずに行けるので何の問題もないようです。研修先は二人とも関東学院大学鎌田研究室でした。他の学生が必ずしも英語が得意ではないこともあり、最初はコミュニケーションに戸惑いもあったようですが、じきお互いに慣れてスムーズに意思疎通できるようになったそうです。ということで特に困ったことはなかったとのことでした。



昼食会

日本にいたとき休日の過ごし方を尋ねてみたところ、研修生仲間と一泊や日帰りで旅行をしたそうです。泊りで行くにはやはり日本語が達者な人間がいた方が安心だそうです。あと、日本の文化や伝統を習う教室があれば行きたかったとのこと、折り紙、茶道、生け花を例に挙げていました。その辺、WaQuAC-Net でサポートできないか検討事項です。

2023 年度参加予定の Ms.Kannicha (4 ページ参照)は日本へ行くのは初めてとのことでしたが、日本食はバンコクで慣れていて、最も好きな料理はカツ丼だそうです。

最後に Ms.Chaweepan から、これまでの派遣は化学職ばかりだったが、ぜひ微生物職も対象にしてほしいという意見がありました。その場合の受け入れ先について、WaQuAC-Net でも鎌田先生等に相談しながら検討していきます。

ランチも含めて 3 時間余り皆と話をしましたが、やはり彼らも自国にいるとリラックスして話がしやすいようで、WaQuAC-Net のサポートについて話を聞く良い機会であったと思いました。



皆でランチ、左から Ms. Kannicha, Ms. Chaweepan, 筆者, Ms. Thtima, Ms. Weesuda

報告 3 チェンマイ環境汚染管理室 1 訪問 笹山 弘

2023 年 5 月 16 日タイ国チェンマイの環境汚染管理室 1 (EPO1) Ms. Sopa を訪ねました。Ms. Sopa は EPO1 の環境分析セクションの責任者で、チェンマイ周辺の村落水道のレベルアッププロジェクトの責任者でもあります。その活動については [WaQuAC-Net 会報 56 号の第 14 回ウェビナー報告](#) を参照してください。今回の訪問で、プロジェクト発足の経緯や現状等について話を聞くとともに、日本でも同様の問題があること、今後 WaQuAC-Net がどのような協力ができるかについて 2 時間余り話し合いました。

EPO1 は地域環境対策室 1 (Regional environment office 1) に汚染対策も組み込んで数

年前に組織が拡大したものです。全国を 16 の地域に分割し、それぞれに EPO を置き、EPO1 はチェンマイ、チェンライ、ランブン及びメーホーンソンの 4 県を管轄しています。各 EPO はそれぞれラボを持ち管轄地域の環境分析及び水道水質分析を行っています。基本 34 項目だけのところと追加の機器を持つところがあります。EPO1 は水銀分析計を設置している数か所の一つです。水源域については乾季、暑季、雨季の年 3 回水質モニタリングを実施、村落水道については全国で対象となる村落が約 60,000 ありますが、実際に水質モニタリングできているのは約 900、各 EPO で平均 60 村落を担当しています。EPO 1 の場合、Ms. Sopa の下で分析に当たるスタッフは 6 名とのことでしたので、サンプリングを含むためかなりのハードスケジュールになるはずですが、実際、休日にサンプリングしているケースもあるようで、Ms. Sopa もスタッフの努力に助けられていると話していました。

村落水道のレベルアップのために管理担当者教育も行っていて、水質の重要性や各項目の意味等は EPO スタッフが講師を務め、実際の設備運用について村落水道の経験者が講師を務めているそうです。現場で運用している人間が講師を務めることで話が具体的になり、理解しやすいと同時に何かの時に相談できるコネクションづくりにもなります。トレーニングは最後に試験も行い、終了証を授与して参加者の自覚を促しています。今後は水安全計画の導入も期待されますが、その点で WaQuAC-Net も何らかの協力ができると思っています。

私はタイの水道プロジェクト (NWTTI) 以来 24 年ぶりのチェンマイ訪問で、かつての同僚と会うことが第一の目的でしたが、Ms. Sopa と会う機会を得て、やはりネットだけでは伝わり切れないものがあると強く感じ、あらためて対面での話の重要性を感じました。



EPO 1 ラボの水銀分析計

WaQuAC-Net 水質管理分科会の発足

WaQuAC-NET メンバーには、様々な経歴・専門の方がいらっしゃいますが、最近の活動は Webinar が中心で、メンバー間で自由に意見交換するような場がありませんでした。今回、会員の岩尾さんの発案で、特定テーマに関心のある人が集まって、関心事や最近の活動について自由に情報や意見を交換する場を立ち上げ、「分科会」として活動を始めることとなりました。まず水質分科会が活動を開始しましたので、第 1 回分科会の様子をご報告します。

1. 開催日時

2023 年 5 月 19 日(金) 21~22 時(日本)

2. 参加者

右の写真、左上から右に、浅見(国立保健医療科学院生活環境研究部)、鎗内(事務局)、岩尾(京都市上下水道局)、辻(荏原製作所)、Ms. Sirapat Khodseewong(タイ国、Mahasarakham University 公衆衛生学部)、小野(横浜市水道局)、守田(TECI)(敬称略)、の 7 名。



3. 主な討論内容

- ・浄水処理でのフッ素除去
- ・残留塩素濃度の確保 など

4. 岩尾さんの感想と今後に向けて(改善点等)

- ・メンバーの発言機会を増やして主体的な参加をしてもらえた
- ・次回も参加したいという意見も複数からもらった
- ・話し合う内容をある程度決めて、ブレイクアウトルームで少人数に分けてもいいかも
- ・ある程度詳細なタイムテーブルを事前に送付する
- ・個別の呼掛けや周知を早めるなどして海外メンバーの参加者を増やす

分科会の今後の展開に注目です！皆さんからも、分科会の立ち上げのご発案、お待ちしております

(事務局)

2023 年度 神奈川県海外技術研修員決定！

今年も神奈川県が実施する標記研修に WaQuAC-Net の推薦でタイ国首都圏水道公社(MWA)の職員 Ms. Wongchai Kannicha が参加することになりました。9 月中旬に来日し、1か月の日本語研修の後、例年通り、関東学院大学(鎌田素之研究室)で水質分析の研修を 4.5 か月間受ける予定です。また、関東圏内の水道関連の施設等を様々などところで視察をする予定です。WaQuAC-Net も関東圏内の水源等の視察旅行や水道分野の研究会、親睦会の参加等で彼女の日本滞在が楽しく、充実するよう支援をしたいと思います。



Ms. Wongchai Kannicha

* 神奈川県では 1972 年から国際貢献の一環として開発途上国から技術研修生を受け入れています。目的は来日した研修員が、県内の研究機関等で実務研修を 6 か月間受けることより、研修生の母国の経済、社会及び文化の向上に寄与することを目的としています。研修課題は水質検査・水質管理、看護、看護教育・管理、ウイルス検査等、食品汚染物(農薬、動物用医薬品)検査、食品添加物検査、医薬品等検査などの分野で、研修員は日本の関連団体の推薦を受けて希望する課題に応募し、数名選ばれます。WaQuAC-Net も推薦団体として 2014 年からタイ、インドネシアの水道公社の職員を推薦しています。また、研修員はある程度の日本語能力が問われます。

WaQuAC-NET と Dr. Nan

元コンケン大学教授 石橋 良信

Ms. Sirapat Khodseewong (愛称 Nan) は仙台での留学を終え、4 月末にタイに帰国しました。WaQuAC-Net は帰国直前に彼女のために、オンラインではありましたが、送別会と就職祝いを催してくれました。山本さん、笹山さんはじめ参加くださったみなさんに感謝申し上げます。

WaQuAC-NET と Nan との係わりは、5 年以上前に遡ります。2018 年、山本さん一行の海外施設視察の折、コンケン大学で講演なさったときに会場の世話や現場案内を担当したのが Nan でした。その後、彼女は東北大学のドクターコースに進み、会員インタビュー、留学生たちとの交流、Webinar での発表や司会などで WaQuAC-NET とは少なからず係わりをもちました。

Nan と私について、コンケン大学公衆衛生学部 (PH-KKU) と福島県立医科大学看護学部は、交換研修を行ってきました。7 年前のその研修に参加した Nan は私と仙台市の茂庭浄水場で出会い、その 1 ヶ月後、私は KKU に着任しました。

その後、Nan は私のマスターコースの学生になりました。研究テーマは大学近くの Nong Khod Lake の富栄養化対策でした。調査研究を一緒に行う一方、はじめての地で勝手のわからない私に、彼女は何かと手を差し伸べてくれました。私が行うセミナーの会場、Ms. Wasana が director を務める PWA の Training Center (RTC2) や Mr. Mongkol の所属する現 Environment and Pollution Control Office, EPO10) までの道案内などです。また、私と Dr. Rittirong (PH-KKU) が RTC2、EPO10 と立ち上げた地方水道改善プロジェクトに Nan は興味を示していました。

2017 年、東北大学と KKU との MOU 締結打ち合わせの際に、西村先生と、同行してきた今野先生、草野さんに講演を依頼しました。この機に Nan は西村先生に富栄養化について質問をし、親切に対応してもらったことがきっかけで東北大学を受験することになりまし

た。

Nan は入学を許可され、課題は“微細な藍藻類であるピコプランクトンの凝集への影響”になりました。

しかし、新型コロナのパンデミックで状況は一変しました。学生たちで賑わうはずのキャンパスは閑散とし、Nan は知り合いをつくる機会も少なくなりました。また、学会もオンラインによる発表ばかりで普段と違う研究生生活を余儀なくされました。

Nan の学生生活の後半、私は一時帰国したままコロナ規制のためにタイに戻れなくなり、隔週に 1 度くらいの頻度で Nan に研究助言をするようになりました。

2022 年 9 月に Nan は無事ドクターコースを修了し、西村先生の研究室の技術補佐員 (Instructor) になりました。

Nan は先生や先輩をリスペクトする気持ちをもっています。また、私、仙台で励ましてくれた今野先生、西村先生と同じ講座、同じ青葉山キャンパスで過ごせたことをとても喜んでいます。そして、我々同様に水道や水環境を研究テーマにすると宣言しています。

その技術補佐員の時期に、WaQuAC-NET はドクター論文の内容の Webinar 発表、さらに Mr. Mongkol と同僚で EPO-1 所属の Ms. Sopa (事務局注: 本会報 3 ページ参照) によるタイトル “Development and challenges of rural water supply in Thailand” の司会を行うなど WaQuAC-NET との絆を強めました。

送別会から 1 週間後、Nan は Mahasarakham University (MSU) の公衆衛生学部に着任して帰国しました。MSU は教育熱心な大学、パイロット的なことを中央政府から引き受ける大学と聞いていますし、私も 2 度ばかり MSU で出前授業をしたことがあります。

着任した Nan は、学部長から指示を受けながら 5 人の卒研究生と活動しはじめています。7 月 7 日には、Nan、学部長、学生たちと私で Zoom meeting により今後の研究について打ち合わせました。

Nan の側には、WaQuAC-NET 会員の Dr. Rittirong、Ms. Wasana、Mr. Mongkol をはじめ、多くの助けてくれる仲間がいます。彼らと協調しながら、学生教育、研究とともに地方の水道の改善に貢献することを願っています。また、タイと会員との懸け橋になってほしいと思っています。



学位記を手にした Nan, 西村先生(右)と私



学部長、学生たちとの Zoom ミーティング

新会員募集！

趣旨に同意いただける方を募っております。
入会は事務局まで。

WaQuAC-NET 会報 第 58 号

発行：2023 年 8 月 1 日

WaQuAC-NET 事務局

連絡先：waquac_net@yahoo.co.jp (鎗内)

URL: <https://www.waquac.net>

今後の活動予定

8 月 15 日 Newssletter Vol .58 発行

8 月下旬 第 15 回ウェビナー「持続的な水道事業運営のための財務・会計(仮)」